

|               |                                 |     |       |
|---------------|---------------------------------|-----|-------|
| 研 究 分 野       | 海洋構造・資源評価                       | 部 名 | 漁場環境部 |
| 研 究 課 題 名     | 資源評価調査委託事業（沖合定線観測・浮魚資源調査）       |     |       |
| 予 算 区 分       | 漁業調整費（国委託）                      |     |       |
| 試験研究実施年度・研究期間 | H.12 ～ H.17                     |     |       |
| 担 当           | 蝦名 浩・清藤 真樹・松尾 みどり               |     |       |
| 協 力 ・ 分 担 関 係 | 東北区水産研究所、日本海区水産研究所、漁業情報サービスセンター |     |       |

#### 〈目的〉

沖合域の海況に関する情報を収集・分析し、漁海況予報等の資料とするほか、水産資源の安定のための基礎資料を得る。

#### 〈試験研究方法〉

青森県の日本海沖合定線観測（年4回）、太平洋沖合定線観測（年4回）において、CTDにより0m～1000mの水温・塩分を観測する。合わせて、ノルパックネットにより0m～150mの鉛直曳きを行い、卵稚仔、プランクトンを採集するほかニスキン採水器により0m～150mで採水し、クロロフィルの分析を行う。また、浮魚類の漁獲情報の集計及び魚体精密測定を行う。

#### 〈結果の概要・要約〉

得られた水温、塩分データは fresco システムによりデータ送信を行った。採取した卵稚仔、プランクトン試料は、分析業務を実施する関係機関へ送付した。

各調査結果により日本海における対馬暖流勢力及び太平洋における津軽暖流勢力をウオダス等に掲載した。浮魚類の漁獲情報の集計結果を fresco システムによりデータ送信を行った。更にスルメイカ、イワシ類、アジ・サバ類の魚体精密測定を行い、測定結果を独立行政法人水産総合研究センターへ報告した。

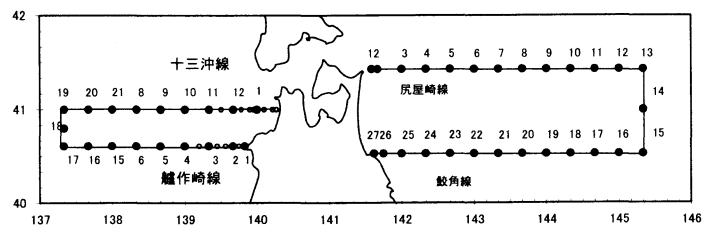


図1 青森県沖合海洋観測定線図(日本海・太平洋)

#### 〈主要成果の具体的なデータ〉

##### 日本海

##### ・各層水温

6月は表層がやや低め、50m層、100m層とも平年並み。9月は表層、50m層がやや高め、100m層が平年並。11月は表層がやや高め、50m層がかなり高め、100m層がやや高め。3月は表層、50m層、100m層とも平年並み。

##### ・対馬暖流の流幅

6月は鰐作崎線、十三沖線とも平年並。9月は鰐作崎線、十三沖線ともやや広め。11月は鰐作崎線がやや広め、十三沖線が平年並み。3月は鰐作崎線がかなり狭め、十三沖線が平年並み。

##### ・水塊深度

6月がやや深め、9月が平年並み、11月が平年並み、3月が平年並み。

・北上流量

6 月が平年並み、9 月が平年並み、11 月がやや少なめ、3 月がやや多め。

・対馬暖流の勢力

6 月がかなり強め、9 月がやや強め、11 月がやや弱め、3 月がやや弱め。

太平洋

・各層水温

6 月は表層がやや高め、50m層、100m層とも平年並み。8 月は表層、50m層がかなり高め、100m層がやや高め。12 月は各層ともやや高め。3 月は表層、50m層、100m層ともやや高め。

・水塊深度

6 月がやや浅め、8 月がやや深め、12 月が平年並み、3 月が平年並み。

・津軽暖流の東方への張り出し位置

6 月が平年並み、8 月が平年並み、12 月がやや東偏、3 月がやや東偏

・浮魚サンプリング

イワシ、サバ類、マアジは4月、8月、1月の漁獲がなかった。サバ類及びマアジは9月に、マイワシ、カタクチイワシ及びウルメイワシは10月に新規加入を確認した。スルメイカは沿岸での漁獲が少なく、6月～9月まで4回の測定にとどまった。

〈今後の問題点〉

太平洋での沖合定線観測は12月に天候の悪化により観測を中断したため、連続データとしての精度が低くなった。12月にCTDのphセンサーが脱落し、機器の一部が損傷した。3月、12月の冬季は天候が安定しないことから、東経145度20分付近まで沖出しして連続観測することが困難である。

また、浮魚精密測定の調査対象種となっているイワシ類、アジ・サバ類の漁獲が低調に推移しているため、計画的な測定が実施できていない。更に、デー

表1 観測、測定項目一覧表

| 項 目               | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計    |
|-------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|------|
| 定線海洋観測(日本海)       |    |    | ◎  |    |    | ◎  |     | ◎   |     |    | ◎  |    | 4回   |
| 定線海洋観測(太平洋)       |    |    | ◎  |    | ◎  |    |     |     | ◎   |    | ◎  |    | 4回   |
| 卵稚仔・プランクトン採集(日本海) | 20 | 20 | 20 |    |    |    |     |     |     |    | 20 |    | 80地点 |
| 卵稚仔・プランクトン採集(太平洋) |    |    | 12 |    | 12 |    |     |     | 12  |    | 12 |    | 48地点 |
| クロロフィルa(太平洋)      |    |    | 13 |    | 13 |    |     |     | 13  |    | 13 |    | 52地点 |
| スルメイカ精密測定         |    |    | ○  | ○  | ○  | ○  |     |     |     |    |    |    | 4ヶ月  |
| 浮魚精密測定            | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○   | ○   | ○   | ○  | ○  | ○  | 周年   |

タとして活用するには、蓄積データが少ない。調査の継続を含めて検討する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

定期海洋観測等により漁況情報を引き続き収集・分析する。その結果を fresco システムにより送信する。各調査結果により日本海の対馬暖流勢力及び太平洋の津軽暖流勢力等の海況情報をウオダス、ホームページ等により水産関係機関、漁業者に情報を提供する。

また、浮魚類の漁獲情報の収集及び魚体精密測定を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

発表：平成17年度東北ブロック水産海洋連絡会

報告：平成17年度漁況海況予報関係事業結果報告書

：平成17年定線観測結果表